

誠心誠意

令和6年度 朝礼(4/30) 校長の話

おはようございます。

今年のゴールデンウィークは2日休んで、3日登校し、それから4日お休みの日が続くというスケジュールで、今日は、休みの間の登校日ということになります。少し気が抜けてしまいがちですが、こういうときこそ気を引き締めて、しっかりと意識を持って生活してほしいと思います。

さて、今日の四字熟語は「誠心誠意」です。たとえば、「彼は誠心誠意仕事に打ち込んだ」とか「ご迷惑をおかけしたことを、誠心誠意お詫びします」などと使います。つまり、誠心誠意とは、心の底にある本当の気持ち、せいっぱいの真心という意味になります。

反対の言葉に「打算」というものがあります。「あの人は打算で動く」という使い方をすることがあります。自分にとって得があるかないかで判断して、得と思われることでなければやろうとしない人のことを「あの人は打算で動く」といったりします。

自分中心に考えて、手を貸すか貸さないかと考えるような人は、結局人から尊敬されないし、感謝されることもないでしょう。それより、何事にも誠心誠意、真心をもって当たれる人は、誰からも信頼されます。

では、真心のある人を、私たちはどうやって見分けたらいいのでしょうか。一見、親切そうな人であっても、よく見るとその人は自分の得になることしかやっていないことがあります。先輩にはいい顔をして、同級生には冷たい態度をとるなんて人がそうですね。ですから、本当に真心のある人かどうかを見分けるには、その人をじっと観察する必要があります。すると、だんだんと分かってくることがあります。それは、真心はその人のちょっとした動作に表われるのだということです。

たとえば、挨拶。ただ声を出しておけばいいだろうと思っている人の挨拶は、その程度の気持ちしか伝わってきません。誠心誠意、相手を尊重する気持ちをもってする挨拶には、心を響かせるものがあります。ああ、この人の挨拶は心がこもっているなと感じます。

物をわたす手つきにも、真心は表われます。相手がとりやすいように、相手の持つところを計算してそろえ、しかも取りやすい高さでそっと手渡す。それができている人を、私たちは自然と好きになります。日本の空港でよく外国の人に驚かれるのは、スーツケースを受け取るターンテーブルといわれるベルトコンベアのところだといいます。割と乱暴にスーツケースを扱う国が多い中、日本の空港ではわざわざ荷物の持ち手が取りやすいように、荷物を回転させて、お客様のいる向きにそろえたり、スーツケースの汚れを拭き取る係の人がいたり、取り損ねたスーツケースは色分けして見やすくロビーに並べたりするのだそうです。ここにも、真心を感じ取ることが出来ます。私たちも見習いたいサービスです。

スキー教室でこんな人を見かけました。室内で過ごす時間に大広間に集合がかり、皆一斉に集まるのですが、畳の座敷にあがる前にはスリッパを脱がなければなりません。何十人ものスリッパが同じところに脱ぎ捨てられる状態になってしまうところ、さっとしゃがみこんでスリッパをそろえる人がいました。さらに、その人は自分のだけでなく、周りのスリッパも素早い手つきで直し、バラバラになったところをすっきりと整頓してくれました。おかげで皆が帰るときには、混乱がなく、スリッパを履いてまっすぐ帰ることができました。

たぶんこの人は、帰りに皆が困らないように考えてくれていたのでしょう。だれに自慢するでもなく、自分以外の人のことを考えて、何の見返りも期待しないで自然と心を尽くすことができる、こういう人

こそ尊敬に値する真心の人です。

私の好きな詩に、長野県の円福寺の和尚さんが作った次のような詩があります。

はきものをそろえると心もそろう
心がそろくと はきものもそろう
ぬぐときに そろえておくと
はくときに 心がみだれない
だれかが みだしたら
だまって そろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心も
そろうでしょう

足下のほんの小さなところにも真心が宿ります。そして、そのような真心はいつか周囲を動かし、心の正しい社会を作ることになるかもしれません。

誠心誠意という言葉を変えて見つめ、しっかりとおなかに納めた人は、これからの行動に純粋な気持ちが宿ると思います。例えば体育祭。みんなが使った大縄が地面に投げ捨ててあれば、黙って拾い上げ、次のために整える。チームが何度も失敗してあきらめてしまうようなムードになったとき、真っ先に声を出してエールを送る。誰かが無理をして苦しい思いをしているとき、そのことに気付いてそばにいてあげる。これらは皆、はきものをそろえるのと同じ、まっすぐな気持ちから生まれるものです。

今日は誠心誠意という言葉を紹介しました。ぜひ普段の生活にいかしてください。

私の話は以上です。